

出題分析			
試験時間	90 分	配点	150 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<b>【概評】</b> 昨年度と同様、長文読解 2 題と自由英作文 1 題の計 3 題であった。設問の出題形式に関しても大きな変更点はなく、英語の語彙・文法知識、読解力、記述力を総合的に問うている。例年通り英文は読みやすいが、制限時間に対して分量が多い。記述問題の解答に時間を費やさすぎないように気を付けたい。大問 I・II は解答の判断に迷う設問が少なく、また大問 III も取り組みやすかった。したがって、昨年度と比較し難易度はやや易化したと言えるだろう。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「適切な謝罪の仕方」	英文の長さは昨年度と比較し、短くなった。設問数は記述問題 9 問、空欄補充問題 6 問の計 15 問であった。昨年度出題されていた内容真偽問題は、今年度は出題されなかった。昨年度よりも記述問題は 1 問減少しているが、時間配分に意識して取り組めたかが重要である。	標準
II	長文読解問題 「AI チャットボットによる回答の正確性」	昨年度と同様に、英問英答形式である。設問数は記述問題 6 問、空欄補充問題等 5 問の計 11 問であった。5 や 8 の内容説明問題は解答根拠が明確で、まとめやすかったと思われる。全体的に取り組みやすいが、特に 1 の空欄補充問題で取りこぼしのないように確実におさえておきたい。	標準
III	自由英作文問題	例年通り、与えられたテーマについて 100 語程度で述べる問題である。今年度は、「日本が外国人観光客にとって近年人気になっている理由」についてであった。やや発想力を要した昨年度と比較すると、今年度はテーマに対する理由を思い付きやすかったと思われる。	やや易

合格のための学習法

出題形式には例年若干の変動があるが、記述主体の長文読解問題と自由英作文が中心となっていることに変わりはない。読解問題では、語彙力の養成に努めつつ、文章を正確に読める内容把握力と、理解した内容を記述答案に落とし込むことができるだけの日本語の表現力を身につけることが第一だろう。そのため、問題演習では、必ず自分で答案を作成することが大切である。第二に、英作文ではどのようなテーマが出されても、臨機応変に論理的な英文が書けるだけの表現力、発想力をつけることが大切である。賛成・反対意見を述べるもの、個人的な経験について記述するものなど、様々なテーマについて 100 語程度の英文を書く練習を積もう。